

製品名: PIM2 (1717) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe16151**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IP 1:10-1:100
分子量	34kDa

抗原情報

遺伝子名	PIM2
別名	PIM2; Pim2h;
遺伝子 ID	11040.0
SwissProt ID	Q9P1W9
免疫原	ヒト PIM2 の合成ペプチド

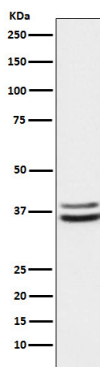
背景

I- κ B キナーゼ/NF- κ B カスケードの正の制御を介して、様々な増殖シグナルに応答して細胞生存を促進します。このプロセスには MAP3K8/COT のリン酸化が必要です。細胞生存と細胞増殖に関与するセリン/スレオニンキナーゼ活性を持つプロトオンコジーンです。MYC 転写活性の制御、細胞周期進行の制御、キャップ依存性タンパク質翻訳の制御、およびプロアポトーシスタンパク質である BAD のリン酸化による生存シグナル伝達を介して、その発癌活性を発揮します。MYC のリン酸化は MYC タンパク質の安定性を高め、それによって転写活性を高めます。PIM2 による MYC の安定化は、腫瘍形成におけるこれら 2 つのオンコジーン間の強い相乗効果を部分的に説明できる可能性があります。哺乳類ラパマイシン標的タンパク質複合体 1 (mTORC1) 非依存的に、PI3K-Akt 経路と並行してキャップ依存性タンパク質翻訳を制御する。BAD のリン酸化を介して生存シグナル伝達を媒介し、抗アポトーシスタンパク質 Bcl-X(L)/BCL2L1 の放出を誘導する。I- κ B キナーゼ/NF- κ B カスケードの正の制御を介して、様々な増殖シグナルに応答して細胞生存を促進する。このプロセスには MAP3K8/COT のリン酸化が必要である。CDKN1A や CDKN1B などの細胞周期因子のリン酸化を介して、成長因子非依存的な増殖を促進する。骨端線成長板における軟骨細胞の生存とオートファジーの正の制御に関与する。

研究分野

シグナル伝達

画像データ



K562 細胞溶解物中の PIM2 発現のウェスタン プロット分析。